

# 巻頭言

2006.11月号  
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

## 一番大切なことを優先する2006

茗溪塾塾長 宇野雅春

ある土曜日のことです。午後1時から入試問題演習をやることになっているため、朝から補習に来ていたS子さんが先生と話しています。

S子「先生、今日は学校の宿題が終わっていないから午後の演習でなくてもいい？」

先生「えっ、そのために来て勉強していたんじゃないのか？」

S子「だって、今までやったけど終わりそうにないんだもの。」

先生「まだ1時までには時間があるのだから、もうちょっと頑張ってみれば？」

S子「お昼は友だちとご飯食べに行くことになっているから時間はないし。」

先生「今日の入試問題演習はやった方がいいと思うよ。」

S子「じゃあ、夜の授業は休んでもいい？」

先生「ダメだよ。今日は大事なところをやるんだから。」

S子「じゃあ、やっぱり午後でない。」

先生「言っている暇に宿題やれば？」

この会話を聞いていて皆さんどう思いますか？学校の宿題がとにかく大切と考えているようにも見えるし友達と遊びに行きたいようにも見えるし、塾での勉強には全く重きを置いていない印象です。それなのに朝から補習に進んできているのはなぜ？日常的にも思い当たることが多いと思います。自分の心の中に優先順位がはっきりしていないときに、こうしたことは常に起こります。目先で起こる事柄に常に追い回されるということです。

見たいTV番組やお稽古ごと、学校のテスト勉強や塾、部活や課外活動、友達からの誘い、ゲーム、漫画や趣味そして休息、さらに単なるおしゃべり等々、忙しいと愚痴を言う人ほど、行き当たりばったりの生活をしています。そのどの事柄にも無自覚です。またそういう人ほど思いもかけない緊急事態に遭遇します。忘れ物をしたり、落とし物をしたり、それを探して必要以上の時間をさらにそこに使います。またそういった友達に常に付き合わされるという事態も生まれます。でもこの緊急事態を解決する充実感というものもあって、なくした物を探し当てたことに喜びもあるわけです。この充実感そのものが「人生」と思うこともあるようです。でもこういう人は自分にとって最も大切なことは常に後に後に追いやられるため、本当の意味で目的を達成することはありません。11月、受験生という立場を考えると教師側から見れば重要局面に思えます。一般的には学校行事に追われる時期で塾には「遅刻」するケースも多く見受けられます。夏休みあんなにがんばったのになぜ今頃ゆるむんだろう？熱心な先生ならそう考えます。

こんな時、どんなに忙しくても今何が一番大切で、何を優先するべきかを知っている人と知っていない人では全く違ってきます。多少おくれたり、時間が取れなかったりはあったにしても、ペースを崩し何をしたいかが解らなくなるような混乱はないはずですよ。

小学生、中学生、高校生それぞれとにかく忙しい時代であることは間違いありません。時間をやりくりして何もかもやり遂げることが不可能に近い中で、何を優先するかを決めることが重要なのだと思います。一番最初に出てきた「会話」のようなことでは成績が上がるということはまず考えられません。自分の緊急事態に追い回される中で塾を含めた全てのことが自分の気持ちの流れで、いいようにアレンジされていくのは自分にとってのチャンスをつぶしていく事です。今年、冬期講習の小学生ピラミッドクラスの日勉強会で「最も大切なことを優先する」という体験プログラムを作ってみました。塾で学力を磨いていくための必須事項として取り組んでみようということなのです。皆さんも、もう一度自分の生活パターンを「最も大切なこと」中心に整理してみませんか？